

地方創生推進交付金 評価シート(総括)

- ① 地方創生に非常に効果的であった(全ての指標が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合)
- ② 地方創生に相当程度効果があった(一部の指標が目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)
- ③ 地方創生に効果があった(指標達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)
- ④ 地方創生に対して効果がなかった(指標の実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言えないような場合)

本事業における外部有識者からの意見を記載。
 「有効であった」という評価の場合、本事業の良かった点は何か等、外部有識者から評価された点等を記載。
 「有効とは言えなかった」という評価の場合、本事業の何が良くなかったのか、何が原因で、どのような改善策が考えられるのか等、外部有識者からの意見を記載。

- ① 事業の継続(計画通りに事業を継続する)
- ② 事業の発展(事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる)
- ③ 事業の改善(事業の効果が不十分であったことから見直し(改善)を行う(または、行った))
- ④ 事業の中止(継続的な事業実施を予定していたが中止する(または、した))
- ⑤ 事業の終了(当初予定通り事業を終了する(または、した))

外部有識者からの評価をどう受けて「今後の方針」欄の選択としたのか、その理由を記載。

資料 5

- 【事業効果】
- ① 地方創生に非常に効果的であった
 - ② 地方創生に相当程度効果があった
 - ③ 地方創生に効果があった
 - ④ 地方創生に対して効果がなかった

- 【課題・苦勞の有無】
- ① 課題・苦勞があった
 - ② 課題・苦勞がほとんどなかった
 - ③ 課題・苦勞が全くなかった

- 【事業の評価】
- ① 総合戦略のKPI達成に非常に有効であった
 - ② 総合戦略のKPI達成に相当程度有効であった
 - ③ 総合戦略のKPI達成に有効であった
 - ④ 総合戦略のKPI達成に有効とは言えない

- 【今後の事業展開方針】
- ① 事業の継続
 - ② 事業の発展
 - ③ 事業の改善
 - ④ 事業の中止
 - ⑤ 事業の終了

事業No	(1) 交付対象事業の名称	(2) 事業の概要	(3) 交付金の種類	(4) 交付決定額(円)	(5) 実績額(円)	(6) 本事業における重要業績評価指標(KPI)					(7) 本事業終了後における実績値			(8) 事業を進める中の課題・苦勞の有無		(9) 外部有識者からの評価		(10) 実績値を踏まえた事業の今後について		
						指標	基準値	目標値	単位	目標年月	実績値	事業効果	内容	課題・苦勞の有無	課題・苦勞に対する取組中における修正・改善※左記①の場合に記載	事業の評価	外部有識者からの意見	今後の方針	今後の方針の理由	
1	地域資源を生かした活力あるまち～宝塚ならではの過ごし方、楽しみ方の提案～	手塚治虫記念館等のインバウンド対応を進めるとともに、地域資源を組み合わせ、市民や事業者、店舗等が一体となって、魅力的なストーリー性のある「宝塚ならではの過ごし方、楽しみ方」を提案し、国内外の観光客を誘客し、消費の拡大、商業の活性化を図っていく。	地方創生推進交付金	28,387,000	27,357,500	指標①	観光入込客数	8,550,571(H27)	9,017,500	人	H31.3	11,789,116	② 地方創生に相当程度効果があった	手塚治虫記念館でのインバウンド対策として、映像部分で英語字幕化や館内ガイド機能を充実させた。また、囲碁の世界大会である「ジャパン碁コンgres」の開催や宝塚周遊バスの運用により国内外からの観光客増に向けた取組を行った。外国人観光客については目標を達成できなかったが、観光入込客数については、宝塚北サービスエリアのオープンもあり、大幅に増加した。今後も本市の魅力発信し、観光客の増及び観光消費の増による地域経済の活性化につなげていく。	① 課題・苦勞があった	国内外からの観光客増に向けて、各事業において、より効果的な事業になるよう新たな要素を取り入れたが、今後も本市の魅力発信について、各事業者と連携した取組を進める必要がある。	①:0名 ②:6名 ③:2名 ④:0名 ※2019/7/26出席有識者数8名	○多様な事業を連携すればもっと効果が上がると思われる。外国人誘客が伸び悩んでいるため、効果的な施策展開が必要である。 ○観光資源の魅力アップに効果があつたと評価するが、今後の展開について課題がある。 ○宝塚歌劇をコアにしたアピールも必要である。 ○現在は地域内で経済が循環する仕組みを考えていく必要がある。 ○宝塚北サービスエリアがオープンしたことを活かし、今後も積極的な地域経済の活性化に取り組んでいただきたい。 ○効果のある有効な施策は継続してほしい。	① 事業の継続	○多様な事業や施設間での連携による国内外からの観光誘客について、市国際観光協会を中心に引き続き、方策を検討し、取り組んでいく。 ○歌劇をはじめとした観光資源の魅力の再認識、再発見、魅力発信について、今後も積極的に取り組んでいく。 ○観光誘客による経済効果については、観光施策の目的そのものであり、宝塚北SAでの展開を含めて、持続可能な方策を検討し、取り組んでいく。 ○公民連携、関係者間での連携などにより、効果的な事業の継続を目指していく。
2	文化芸術を核とした戦略的なプロモーションによる移住・定住・交流促進～ときめく日々がたからもの。宝塚～	官民一体となった戦略的なプロモーションやイベントを通じた情報発信を展開することで、「文化芸術のまち」としての地域イメージを確立させていく。あわせて、文化芸術産業及び関連産業の活性化等に取り組む、「文化芸術」のまちづくりを推進する。	地方創生推進交付金	9,020,000	8,865,370	指標①	観光消費額	63,646,000(H28)	65,748,000	千円	H31.3	64,877,000(H29)	② 地方創生に相当程度効果があった	本市らしい美しく洗練されたイメージで構成したライフスタイルブックvol.2を制作、配布した。PR動画は約100万回再生するとともに、全国広報コンクールで入選を果たした。 また、花のみち周辺で「宝塚アニメフェスタ2018×ハロウィン」を開催し、メインイベントとしてコスプレパレードの実施や宝塚ファミリーバーガーランドの同時開催により、4万人を超える集客があり、本市観光の中心地の賑わいや活気を創出した。 引き続き、文化芸術を核とした情報発信を行うとともに、文化芸術産業及び関連産業の活性化に取り組む。	① 課題・苦勞があった	シティプロモーションに関しては、市外から人を呼び込むためのPR媒体や手法の研究のほか、効果的・効率的に取り組むため庁内関係部署とのさらなる連携が必要である。 観光施策(事業)における目的は市内経済の活性化(観光消費額増)であることにより、事業展開を進めた。	①:0名 ②:4名 ③:4名 ④:0名 ※2019/7/26出席有識者数8名	○最も重要な人口増に結びついていない。 ○まちの魅力を強く広範囲に発信するには、民間の力の活用が必要である。 ○シティプロモーション室又は課を創設するべきである。 ○中途半端な状態となっており、もう少し掘り起して戦略的に考えてほしい。 ○KPIに一定の効果が出ているが、今後は情報発信の強化を図る必要がある。 ○せっかくこれだけ魅力ある資源があるので、宝塚をもっとまっくアピールしていただきたい。 ○公民協働で進展させなければならない。 ○ライフスタイルブックはとても良かったので、今後は是非継続してほしい。	① 事業の継続	○シティプロモーションについては、シティプロモーション戦略で定めるターゲットである「ライフスタイルに高い意識を持つ女性」に向けた情報発信により、効果的・効率的なPRが行えるようその手法を研究するとともに、事業者や市民等との協働を意識した事業展開を図り、本市の魅力や戦略的にアピールすることで人口増やまちの活性化につなげていく。 ○観光誘客イベントにおいては、今後も公民連携で魅力ある事業展開を図り、交流人口増から定住人口増を目指していく。
3	エイジフレンドリーシティの創造～市民の参画・交流・活躍による豊かな地域づくり～	市民自らがまちの課題について考え、決めて、行動する「地域自治」確立のため、本市20のまちづくり協議会の役割や活動の周知、地域ごとのまちづくり計画見直しに向けた支援等を行うとともに、組織強化や連携促進を図る。 また、高齢者をはじめあらゆる世代にやさしいまち「エイジフレンドリーシティ」を推進し、「お互いさま」があふれるまちの実現に向け、多様な主体が参加する推進体制づくりに取り組むとともに、地域の住民同士が助け合い、支え合う仕組みや居場所づくりを進める。	地方創生推進交付金	15,069,000	14,346,976	指標①	社会増減における転入超過数	569(H28)	1,229	人	H31.3	80	③ 地方創生に効果があった	まちづくり協議会ごとのまちづくり計画策定支援策として、地域の情報を集めた地域カルテを作成するなど、地域住民の話し合いを促すきっかけを提供し、住民自治の推進のための支援を行った。 エイジフレンドリーシティ推進員制度を活用して新たにに取り組む協働事業数	① 課題・苦勞があった	今後さらに続く少子高齢化傾向と担い手が減少する社会を見据えた場合、地域で活動、活躍する人材の確保、育成は、もっとも大切な要素となる。 行政においても人員の増加は見込めないことから、これまでのような行政完結型のサービス提供手法から、市民、事業者の力を借りつつ、市民の満足度を高めるまちづくり手法へと転換を図る必要があるが、そのためには、職員、市民、事業者への意識改革、行動変容の呼び掛けとともに、できることから少しずつ成功事例を積み上げる必要があるため、取組に対するスピード感を実感しづらい現状がある。	①:0名 ②:3名 ③:5名 ④:0名 ※2019/7/26出席有識者数8名	○最も重要な人口増に結びついていない。 ○従来のボランティア「お互いさま」より、事業化によるエイジフレンドリーシティを目指すべきである。 ○市民が主体で取り組む市民意識の向上を図る必要がある。 ○まだ実績が見えない。 ○施策がKPIの成果にしっかり結びついていない。 ○宝塚という住みやすいまちづくりの支援に取り組むとともに、産業の創出などまちの活気につながる取組を今後も期待する。 ○公園の整備は今後も継続してほしい。	③ 事業の改善	○高齢化・少子化が進展する中、持続可能なまちづくりをいかに進めるかは市政運営において最も重要な課題であるが、これからの社会を見据え、行政だけでなく民間の人、場所、お金、情報といった社会資源をまちづくりに最大限活用する仕組みづくりが不可欠となっているため、住民主体のお互い様の取組が、住みやすいまち、住み続けたいまちづくりにつながるように、経済的な循環も視野に入れたながら多くの市民が活動しやすい基盤(プラットフォーム)を整備することを目指す。
合計				52,476,000	50,569,846															

地方創生推進交付金 評価シート(個別事業)

交付対象事業の名称	地域資源を生かした活力あるまち～宝塚ならではの過ごし方、楽しみ方の提案～						
総事業費 ※交付金以外含	56,775,000	交付決定額 (A)	28,387,000	実績額 (B)	27,357,500	過不足額 (A-B)	1,029,500

(単位:円)

事業主体名称	事業名及び内容	交付決定額	実績額	事業経費内訳	実施内容	評価
宝塚市	【手塚治虫記念館管理運営事業（インバウンド等の推進）】 館内映像の作品追加及びインバウンド対応として英語字幕化を行うとともに、館内のガイド機能や展示物に連動した機能をもったスマートフォンアプリの開発（多言語対応）を行う。また、近隣飲食店舗とのコラボレーション企画を実施する。	12,085,000	12,067,056	(ソフト事業) 1 映像ホール作品追加・翻訳費 (1) 業務委託料 15,972,120 2 スマートフォンアプリ作成費 (1) 業務委託料 7,992,000 3 近隣飲食店舗とのコラボレーション (1) グッズ制作費用 169,992 事業費計 24,134,112 交付金実績額（事業費計×1/2） 12,067,056	映像ホールの上映作品に、手塚治虫のアニメへの情熱が感じられる「実験アニメーション」を14作品追加した。手塚治虫記念館でしか上映していないオリジナルアニメ3作品と合わせて全作品を英語字幕化した。 館内をより楽しみながら観覧して頂くツールとして、アプリを制作。多言語による館内ガイドや、写真機能を活用した遊べるコンテンツも充実させた。 企画展「MACROSS:THE ART」の関連企画として、近隣飲食店舗とのコラボレーションで、飲食をすればもらえる飲食コラボノベルティ（コースター）を作成、配布した。 【実績】 飲食コラボノベルティ（コースター）3,700枚作成 最終配布数：10,842枚	訪日外国人が多く来館する施設において、日本語が分からない方でも内容を理解し、記念館を楽しめるツールを充実させることが出来た。また、飲食コラボノベルティ（コースター）については、当初作成数を大幅に上回る人気を博し、飲食店舗とのコラボレーションの盛り上がり大きく寄与した。より一層の広報活動に努め、今後のインバウンド需要をうまく取り込み、海外からの来館者数が増加するよう努めていく。
宝塚市	【宝塚周遊パス事業】 滞在型ビジターの増加を図るため、旅行代理店と連携して、観光集客施設、飲食・物販店等で利用できる「周遊パス」を作成し、市内の店舗や観光施設、交通機関や宝塚向け旅行商品購入者等に配布する。	2,550,000	2,550,000	(ソフト事業) (1) 宝塚周遊パス事業補助金 5,100,000 事業費計 5,100,000 交付金実績額（事業費計×1/2） 2,550,000	旅行代理店と連携し、市内の対象施設で料金割引等の様々なサービスが受けられる特典付周遊パスポート「宝塚周遊パス」を制作、発行し、観光客の来宝意欲の向上、経済波及効果が高いとされる滞在型ビジターの増加、消費拡大による地域活性化を促した。 実施（配布）期間は平成30年11月1日～平成31年3月31日。 【実績】 配布数：45,000部（昨年16,000部） 参画施設：計74施設 ※うち48施設は特典（一部プレゼントキャンペーン賞品）提供店舗。残り26施設は地図上に店舗名のみ記載。 （昨年37施設） 総利用者数：4,822人（昨年1,274人） アンケート回収数：89件（昨年196件） ※今年度は賞品当選者（計136名）に対してのみ実施（回収率65.4%） 参画店舗総売上（経済効果）：1,490,260円（昨年1,348,110円）	前年度の運用期間（10月～3月）に比べ、11月～3月の実施と、1ヶ月短くなったが、パスの配布数・配布先の拡充・拡大により、利用回数・売上実績・回遊率の全てにおいて前年度実績を上回ることができた。 経済波及効果が高いとされる滞在型ビジターの獲得や市内経済の活性化等の事業目的を達成することができた。
宝塚市	【園芸振興事業（花き植木のまち魅力向上事業）】 市内の個人宅・事業者に庭を公開してもらおうオープンガーデンフェスタを開催し、市民に花と緑に親しみをもってもらおう。	1,357,000	1,356,858	(ソフト事業) 1 オープンガーデンフェスタの開催 (1) オープンガーデン普及促進事業（指定管理料）（その1） 2,340,576 (2) オープンガーデン普及促進事業（指定管理料）（その2） 373,140 事業費計 2,713,716 交付金実績額（事業費計×1/2） 1,356,858	約1,000年の花き植木の歴史を有する山本地区を中心に市内93箇所で、個人や事業所の庭園を一般公開するオープンガーデンを開催した。庭主が参加しやすいよう開催期間を前期と後期に分けるとともに、後期はバラ庭園が参加できるよう開催日を定めた。 オープンガーデンのガイドブックを宝塚市役所内、各サービスセンター・サービスステーション（支所）、あいあいパークに設置。また、ラジオや地域情報誌で広報を行い、情報宣伝活動を行った。 【実績】 開催期間：前期（4/26～4/28）後期：（5/20～5/22） 参加庭園数：93庭園 来場者数：8,000人 オープンガーデンフェスタガイドマップ：8,000部	市に登録されている市民緑化団体は110団体を超過しており、緑化団体によるまちかど緑化により、道路沿いや地域の花壇が花や緑で彩られ、本市の魅力の一つとなっている。これらの花壇をはじめとして、緑化団体以外の市民も参加して、93箇所で市内外の方に花と緑を楽しんでもらえるよう各庭園を公開した。 市主催のバスツアーに加えて、旅行会社によるツアーの開催もあり、あいあいパークをはじめ、開催地域の観光誘客に寄与した。行政と地域住民、企業が一体となって花き植木のまち宝塚をPRすることができた。

地方創生推進交付金 評価シート(個別事業)

交付対象事業の名称	地域資源を生かした活力あるまち～宝塚ならではの過ごし方、楽しみ方の提案～						
総事業費 ※交付金以外含	56,775,000	交付決定額 (A)	28,387,000	実績額 (B)	27,357,500	過不足額 (A-B)	1,029,500

(単位:円)

事業主体名称	事業名及び内容	交付決定額	実績額	事業経費内訳	実施内容	評価
宝塚市	【新名神高速道路利活用等地域活性化推進事業（「宝塚 花の里・西谷」推進事業）】 宝塚北サービスエリア及び宝塚北スマートインターチェンジの供用開始に伴い、名産品、観光PRなど地域の魅力発信を行い、「宝塚 花の里・西谷」ブランドの基盤強化及び発展に向けた支援を行う。	375,000	138,500	(ソフト事業) (1) 「宝塚 花の里・西谷」活動事業補助金 277,000 事業費計 277,000 交付金実績額（事業費計×1/2） 138,500	新名神高速道路開通1周年を記念して、地域の有志や小学生約30名で宝塚北スマートインターチェンジ付近にササバザクラの苗木8本の植樹を行った。 特産品・加工品販売促進を目的に宝塚北サービスエリアでの物産展開催に係る、供用の什器類購入に対して補助を行った。	花の植樹に関しては、当日の植樹活動とは別に広く地域内に募金を呼びかけ、多くの方の賛同を得て、約250,000円の募金が集まり、次年度以降の活動の原資を獲得することができた。 宝塚北サービスエリアでの物産展開催については、NEXCO西日本やエリアの運営事業者と調整し、エリア内の一角での継続開催に目処を立てた。また、物産展に参加する事業者も徐々に増え、商品数も増加傾向にある。
宝塚市	【長谷牡丹園管理運営事業（長谷牡丹園観光機能強化事業）】 園内の植栽充実及び園路舗装によるバリアフリー化工事を実施し、農業観光施設の核としての魅力増進を図る。また、全国最大の産地である島根県大根島のJAに技術指導を依頼し、栽培技術の向上を図る。	1,500,000	1,373,610	(ソフト事業) (1) 栽培技術指導手数料 500,000 (2) 芍薬苗購入（消耗品費） 499,780 (ハード事業) 1 バリアフリー化工事 (1) 園路舗装工事費 1,747,440 事業費計 2,747,220 交付金実績額（事業費計×1/2） 1,373,610	長谷牡丹園の観賞魅力を高めることを目的とし、新たに芍薬苗300株の増殖を行った。更に、日本有数の牡丹・芍薬の産地である島根県松江市大根島よりJAしまねの技術者を4名招き、栽培技術や庭園運営に関する指導を受けた。 また、砂利敷きであった園路のアスファルト舗装（バリアフリー化工事）を行い、周遊の利便性拡大を図った。 【実績】 新規芍薬苗植栽：300株 栽培技術指導：3回実施（5月・9月・2月） 園路舗装：165.0㎡（アスファルト舗装） 105.0㎡（縁石工） 来園者数：6,186人（平成29年度:5,372人）	栽培技術指導による牡丹・芍薬の開花期間の延長等の成果が見られ、入園者アンケートでは例年より満足度が非常に高い結果となった。 園内のバリアフリー化により利便性が上昇したことで、平成30年度の入園者数は前年度比約15%増となった。
宝塚市	【ダリアで彩る花のまちづくり事業（ダリアまちなか普及事業）】 地域資源としてのダリアPRのため、ダリアの花の魅力を活かした情報発信や花飾りイベント等を実施し、市内外に情報発信を行う。 また、宝塚ダリア園を観光農業施設として魅力ある施設へと充実を図り、来園者の増加に結び付けるとともに、担い手の育成を図る。	2,375,000	2,337,120	(ソフト事業) 1 南部地域における委託事業 (1) 業務委託料（その1） 3,486,240 2 北部地域における委託事業 (1) 業務委託料（その2） 1,188,000 事業費計 4,674,240 交付金実績額（事業費計×1/2） 2,337,120	南部市街化区域では、あいあいパークにおいて、ダリアのプリザーブドフラワーやフラワーアレンジメント、ダリア花飾りの展示を行うとともに、写真スポットを設置した。また、ダリアのフラワーアレンジメント講座やイベント会場にてダリアの花じゅうたん体験を行い、ダリアと身近に触れ合ってもらえる機会を提供した。 北部西谷地域では、4地区でダリアの植栽と技術指導を行ったほか、宝塚北サービスエリアにおいても花かざりを設置した。また宝塚ダリア園では、「花釣り」や「花びらしおりづくり」などのイベントを開催したり、写真スポットを設け、来園者がダリアに親しんでもらえるよう取り組んだ。 加えて、市役所を中心に市公共施設で切り花の展示を行い、ダリアの魅力をPRした。 【実績】 ダリア花かざり：7個（プリザーブドフラワー含む） ダリア花じゅうたん（秋の植木まつり）：約7,500本使用 公共施設等ダリア生け花飾り：約2,000本配布 宝塚ダリア園PR用チラシ：10,000枚 来園者数：5,059人（平成29年度2,814人、平成28年度5,264人）	昭和4年から行われている本市のダリア球根栽培は、全国の約4割のシェアを誇る地場産業であり地域資源であるが、ダリアと宝塚のつながりの認知度は高くなかった。 本事業により、市内にむけて、宝塚のダリアを継続的にPRするとともに、宝塚北サービスエリアやSNSの活用により、市外へむけても積極的にPRを行ったことで、宝塚ダリア園の来園者数は前年度より増加した。 なお、平成29年度は甚大な台風被害により、開園期間を大幅に短縮した。また、平成30年度も酷暑と台風の影響により開園期間を9日間短縮したものの、左記のとおり来場者数となった。

地方創生推進交付金 評価シート(個別事業)

交付対象事業の名称	地域資源を生かした活力あるまち～宝塚ならではの過ごし方、楽しみ方の提案～						
総事業費 ※交付金以外含	56,775,000	交付決定額 (A)	28,387,000	実績額 (B)	27,357,500	過不足額 (A-B)	1,029,500

(単位:円)

事業主体名称	事業名及び内容	交付決定額	実績額	事業経費内訳	実施内容	評価
宝塚市	<p>【自然休養村運営事業(観光農業推進事業)】 収穫祭の開催や新名神高道路の開通に係る案内看板の設置により誘客増のための施策を実施する。 また、地産地消の意識醸成のために収穫体験の開催や学校給食で地元産野菜を提供するなどの施策を実施する。</p>	1,000,000	966,600	<p>(ソフト事業)</p> <p>1 観光農業の推進</p> <p>(1) 業務委託料 1,350,000</p> <p>2 地産地消の推進</p> <p>(1) 業務委託料 583,200</p> <hr/> <p>事業費計 1,933,200</p> <p>交付金実績額(事業費計×1/2) 966,600</p>	<p>≪自休村管理運営指導委託≫ 北部西谷地域の豊かな自然を都市住民に提供するため、秋の実りの時期に西谷で収穫祭を開催し、南部地域では、消費者と生産者との交流を深める朝市等を開催した。 また、観光農業推進を図るため牡丹園やダリア園の事業実施に協力した。</p> <p>【実績】</p> <p>○観光農業推進事業 ・観光案内看板修繕</p> <p>○特産物育成流通促進事業 ・宝塚朝市の開催：年間11回開催 来場者数8,767人</p> <p>○集落活性化事業(西谷収穫祭) ・開催日：11月3日(土) ・来場者数：3,500人 ・その他：牡丹と芍薬まつり、ダリア花まつりへの協力</p> <p>≪地産地消委託≫ 親子収穫体験ツアー(12月1日(土))を開催、80名の参加者に農業を身近に感じてもらい、地産地消の意識醸成を図った。 学校給食では、生産者がゲストティーチャーとして子どもたちに授業を行ったり、学校調理員や栄養教諭にも農業体験指導を行った。また、学校給食の新メニュー開発に向けて西谷産野菜等の食材を提供した。</p> <p>【実績】</p> <p>○親子収穫体験ツアー ・参加者の親子に対してお土産(西谷産野菜)を提供</p> <p>○学校給食 ・ゲストティーチャー：小学校3校、中学校6校実施 ・農業体験指導：3回実施</p>	<p>≪自休村管理運営指導委託≫ 収穫祭開催日数を1日としたため来場者数は減少したが、長谷牡丹園の来園者数は6,186人と前年度比約15%増加、ダリア花まつりも1,332人と平成28年度比約25%増加(平成29年度は台風の影響により中止)した。 また、西谷収穫祭や朝市の活動により、都市住民に「地産地消」、「食の安全・安心」の意識醸成が図れた。</p> <p>≪地産地消委託≫ 親子収穫体験ツアー参加者へのアンケート調査の結果によると、収穫体験に参加した子どものうち約80%が以前よりも野菜を食べるようになったとの回答が得られたことから、子どもたちを中心に農業や地産地消への関心が高まったと言える。 生産者が学校で授業を行うゲストティーチャーでは、収穫直後の野菜を洗ったり、手入れをするなど、日常生活では、生徒、児童が行わないような農作業の一部を体験してもらうことで、農業や地産地消に興味や関心を持つてもらうことができた。</p>
宝塚市	<p>【農業・園芸体験交流促進事業(観光農業推進事業)】 市域北部の生産者と南部の都市住民及び市内外の人的交流を促進し、農業・園芸資源を市内外にPRし、地域産業の活性化を図る。</p>	250,000	187,200	<p>(ソフト事業)</p> <p>1 農業・園芸体験交流事業</p> <p>(1) 施設使用料 2,400</p> <p>(2) 車両借上料 48,000</p> <p>(3) 業務委託料 324,000</p> <hr/> <p>事業費計 374,400</p> <p>交付金実績額(事業費計×1/2) 187,200</p>	<p>農業・園芸体験をとおして下記の交流を実施した。</p> <p>【実績】</p> <p>○親子収穫体験ツアー：大型バス借上料等 ・生産者の指導のもとに収穫体験をとおして交流 ・参加者：親子80人</p> <p>○宝塚西谷を巡るモニターツアー：業務委託料 ・西谷の観光農園・伝統植物体験をとおして交流 ・田園や里山風景の広がる宝塚の体験型リゾート「西谷地区」と題した案内チラシを制作・配布 ・参加者：18人</p>	<p>親子収穫体験ツアーでは、定員を2割近く上回る応募があり、抽選の結果28組80人の参加があった。若手生産者の指導のもと、小学生以下の子どもを中心に西谷の農業に触れてもらい、地元農業への関心を高めてもらった。</p>
宝塚市	<p>【宝塚自然の家利活用推進事業】 平成30年度の再オープン、以降のリニューアルオープンに向けて、有識者からの意見聴取、プログラムの試験的開催に取り組む。</p>	220,000	176,532	<p>(ソフト事業)</p> <p>(1) 試行プログラム実施に係る協力 234,800</p> <p>(2) 試行プログラム実施に係る消耗品費 118,265</p> <hr/> <p>事業費計 353,065</p> <p>交付金実績額(事業費計×1/2) 176,532</p>	<p>宝塚自然の家において、地元や関係団体と協働で、ギフトウ、ハッチョウトンボ、星空などの観察会や、自然クラフト、地元の野菜を使ったアウトドア体験などの体験活動の機会を提供した。</p> <p>【実績】 イベント参加者数：2,504名</p>	<p>宝塚自然の家の活用方法等について、地元や関係団体と検討を行うとともに、自然体験等の事業プログラムの試行を効果的に実施することができた。</p>

地方創生推進交付金 評価シート(個別事業)

交付対象事業の名称	地域資源を生かした活力あるまち～宝塚ならではの過ごし方、楽しみ方の提案～						
総事業費 ※交付金以外含	56,775,000	交付決定額 (A)	28,387,000	実績額 (B)	27,357,500	過不足額 (A-B)	1,029,500

(単位:円)

事業主体名称	事業名及び内容	交付決定額	実績額	事業経費内訳	実施内容	評価

地方創生推進交付金 評価シート(個別事業)

交付対象事業の名称	地域資源を生かした活力あるまち～宝塚ならではの過ごし方、楽しみ方の提案～						
総事業費 ※交付金以外含	56,775,000	交付決定額 (A)	28,387,000	実績額 (B)	27,357,500	過不足額 (A-B)	1,029,500

(単位:円)

事業主体名称	事業名及び内容	交付決定額	実績額	事業経費内訳	実施内容	評価
宝塚市	【観光振興・宣伝事業（観光キャンペーン）】 宝塚歌劇団等との連携により、首都圏での観光キャンペーンを実施する。また、宝塚歌劇OG、民間事業者（フェリー会社）等との連携により、大分で観光キャンペーンを実施する。	1,916,000	1,933,340	(ソフト事業) (1) 観光宣伝事業補助金 3,397,500 (2) 旅費（首都圏） 282,000 (3) 旅費（大分） 187,180 事業費計 3,866,680 交付金実績額（事業費計×1/2） 1,933,340	観光協会が主体となり、首都圏での観光キャンペーンを横浜市みなとみらい地区にて実施。また、大分での観光キャンペーンでは宝塚歌劇団OG、民間事業者と連携を行い、船内や現地百貨店でのイベントを実施。大分地域でのメディア2社の取材を受けた。遠隔地で本市のPR、イベントを実施することで交流人口の増加を図った。 【実績】 ○横浜地区 ・現地旅行代理店など参加者数：16団体47名（前年度13団体42名） ・一般参加者数：約1,000名（前年度約650名） ○大分地区 ・船内イベント参加者：約200名（前年度約200名） ・百貨店イベント参加者：約300名 ・取材メディア：OAB（大分朝日放送）、OBS（大分放送） ※両社とも同日夕方のニュースにて放送。	前年度と同様の横浜地域、大分地域にて実施した。 横浜地域ではイベントの参加者数も大幅に増加し、令和元年（2019年）5月に実施した横浜市のイベントにおいては、横浜市から招待を受け、宝塚市からパラの寄贈を行うなど、本事業を通しての行政間連携が深まった。 大分地域では前年度に引き続き、船内イベントを実施したほか、現地の百貨店の協力も得たため、現地メディアの取材を受けるまでとなった。 これらの取組により開催地での宝塚市の認知度がより向上し、交流人口の増加に繋がった。
宝塚市	【海外誘客事業（ジャパン碁コンgres）】 海外誘客に向け、日本文化として関心の高い碁の大会「ジャパン碁コンgres 2018」を開催する。	2,577,000	2,577,000	(ソフト事業) 1 海外誘客事業補助金 5,154,000 事業費計 5,154,000 交付金実績額（事業費計×1/2） 2,577,000	世界的な囲碁イベント「ジャパン碁コンgres」の開催（平成30年（2018年）7月13日（金）～16日（月・祝））にあたり、関連団体と連携してホストタウンとしての取組を行った。また、各国から集まった参加者間の交流と周辺店舗の回遊を促進する会場内通訳の手配や海外参加者の日本文化体験、新たに会場周辺での歓迎サインの設置、市内店舗周遊企画等の取組を行うとともに、誰もが気軽に参加できるサブイベントを実施し、まちの賑わいづくりに取り組んだ。 主催：ジャパン碁コンgres 2018 in 宝塚 実行委員会 会場：ソリオホール、宝塚商工会議所、男女共同参画センター・エール 【実績】 来場者：4日間延べ約1,200人（前回：5日間延べ2,500人） 参加者国数：17の国と地域（前回：16の国と地域）	平成28年の日本初開催から3回目を迎え、前年度開催と比較すれば、費用面の関係から会場規模の縮小、前夜祭を取りやめたことで延べ参加者数は前年度を下回ったが、参加者の国数は1増となり、イベントを通じてより多くの国に対して本市をPRできたと考えている。また、ウェルカムサインを設置したことで、周辺の歓迎ムードを醸成するとともに、これまでイベントのことを知らなかった市民や通行人に対してもPRを行うことができた。 そのほか、海外の参加者を対象とした店舗周遊企画では、市内での消費を促し、実際にレシートを回収することで、海外の方が市内で何を購入し、どの店を利用したか等のデータを取ることができたが、参加者が囲碁以外のことに興味を示さなかったことや企画の周知が不十分であったこともあり、海外の参加者は55名程度となった。今後同様の企画を実施する際は、海外の方に効果的な周知方法を検討する必要がある。 大会内でのスペシャルイベントではアジア3か国からトップ女流棋士を招待したこともあり、参加者のロコミやSNS、メディアを通じて世界中の囲碁ファンに本市をPRできた。
宝塚市	【文化振興事業（都市間交流誘客促進事業）】 本市と友好都市である大分市における文化芸術交流及び誘客活動を実施する。	568,500	313,707	(ソフト事業) 1 大分市との文化交流事業 (1) 業務委託料 627,415 事業費計 627,415 交付金実績額（事業費計×1/2） 313,707	平成30年10月20日、大分市内34会場、計約900人の出演者が参加する「おおいた夢色音楽祭」に、ベガ ジュニア アンサンブルが出演。ガレリア竹町ドーム広場及び大分駅前2の会場にてそれぞれ20分間で5曲を演奏した。インタビューでは、ベガ ジュニア アンサンブルの活動の様子や平成24年に「災害相互応援に関する協定」を結んだ大分市と本市の関係を紹介した。大分市にゆかりのある滝廉太郎の曲「荒城の月」や手塚治虫にちなんだ曲「鉄腕アトム」等を演奏し、大分市との文化交流を意識した演奏を行った。	週末に往来の多い広場や駅前会場で、音楽を通じた交流と大分市と締結している協定について大分市民向けにPRする機会が持てたことは評価できると考えている。また、観光PRについても、宝塚市の魅力を知ってもらう良い機会となった。

地方創生推進交付金 評価シート(個別事業)

交付対象事業の名称	地域資源を生かした活力あるまち～宝塚ならではの過ごし方、楽しみ方の提案～						
総事業費 ※交付金以外含	56,775,000	交付決定額 (A)	28,387,000	実績額 (B)	27,357,500	過不足額 (A-B)	1,029,500

(単位:円)

事業主体名称	事業名及び内容	交付決定額	実績額	事業経費内訳	実施内容	評価	
宝塚市	【社会体育振興事業(都市間交流誘客促進)】 姉妹都市の松江市とスポーツ交流を実施するとともに、誘客活動を行う。	846,500	843,217	(ソフト事業)	平成30年5月19日・20日、松江市からスポーツ愛好者58人、役員19人が来訪し、宝塚市立スポーツセンター及び宝塚市立花屋敷グラウンドにおいて、軟式野球、サッカー、サイクリング、バドミントン、バレーボールの交流試合を行い、相互の友情と親睦を深める場となった。	市内の各スポーツ施設において、交流試合を実施し、両市におけるスポーツを通じた交流を推進させることができた。今後もスポーツ交流を柱とし、引き続き来訪される方々のニーズに対応し、姉妹都市である両市の相互発展に寄与するよう活動を促進させていく。併せて、来訪された方々に、再度宝塚市を訪れてもらえるよう、姉妹都市相互の魅力を認識してもらえらるための取組を進めていく。	
				(1) 松江市交流事業委託費			1,686,435
				事業費計			1,686,435
				交付金実績額(事業費計×1/2)	843,217		
宝塚市	【文化財保護事業(宝塚の歴史 魅力発信事業)】 平成29年度に作成した「歴史散歩ガイドマップ」の多言語版を作成し、配布するとともに、市ホームページに掲載し、情報発信する。また、作成したガイドマップを文化財ガイドソサエティ等と連携し、有効活用を図る。	767,000	536,760	(ソフト事業)	「歴史さんぽガイドマップ」の多言語版(英語6,000部、中国語(簡体字)3,000部、韓国語1,000部)を作成し、市ホームページに掲載するとともに、公共施設や関係団体に配布し、情報発信を行った。	ガイドマップを契機として、掲載施設に訪れる方も見受けられ、一定の集客効果があったと考えられる。より多くの方に、文化財が目につける機会をつくるため、引き続き、関係団体や観光部門との連携を図る。	
				(1) 翻訳手数料			576,720
				(2) マップ印刷製本費			496,800
				事業費計	1,073,520		
				交付金実績額(事業費計×1/2)	536,760		
		28,387,000	27,357,500				

文化芸術を核とした戦略的なプロモーションによる移住・定住・交流促進～ときめく日々がたからもの。宝塚～
地方創生推進交付金 評価シート(個別事業)

交付対象事業の名称	文化芸術を核とした戦略的なプロモーションによる移住・定住・交流促進～ときめく日々がたからもの。宝塚～						
総事業費 ※交付金以外含	18,040,000	交付決定額 (A)	9,020,000	実績額 (B)	8,865,370	過不足額 (A-B)	154,630

(単位:円)

事業主体名称	事業名及び内容	交付決定額	実績額	事業経費内訳	実施内容	評価
宝塚市	【企画調整事業(政策アドバイザー)】 「文化芸術」の専門的な知識を有する本市政策アドバイザーに、指導、助言を受け、「文化芸術」のまちづくりを推進する。	10,500	10,400	(ソフト事業) (1) 報償費 20,800 事業費計 20,800 交付金実績額(事業費計×1/2) 10,400	平成29年7月に、著名な劇作家・演出家であり、文化芸術や教育の分野等の専門的な知識を有する平田オリザ氏に政策アドバイザーに就任いただいた。 新たな文化芸術センターについて、美術作品の展示機能だけでなく、市民活動・交流機能を持つ複合施設として整備することの意義や管理運営の考え方などについて助言をいただいた。	平田オリザ氏からの助言を参考にし、多くの来訪者の交流・創造をもたらす場所として、また文化芸術振興の拠点として「心豊かな生き方」を提案できる運営を目指すことを掲げた「文化芸術センター・庭園に係る管理運営の基本方針」を策定した。
宝塚市	【シティプロモーション推進事業】 時代に即した総合的な情報発信の仕組みを構築するとともに、市民等との協働により地域イメージやブランド価値の向上を図るため、官民一体となってシティプロモーションを展開する。	4,093,000	3,988,410	(ソフト事業) 1 ライフスタイルブック、ポスターの制作、紙媒体での特集等の掲載、シティプロモーション動画のYouTube TrueViewでの情報発信(シティプロモーション推進業務委託) (1) 業務委託 7,644,672 2 フォトブックの制作 (1) 制作費 129,000 (2) 印刷製本費 203,148 事業費計 7,976,820 交付金実績額(事業費計×1/2) 3,988,410	平成29年度に引き続き、「ときめきに満ちた日々」を送る4組のライフスタイル等を紹介するライフスタイルブックvol.2を制作・配布するとともに、周知ポスターを阪急神戸線・JR神戸駅で2週間、JR大阪駅・JR三宮駅で4週間掲出した。また、阪急沿線情報誌TOKK3月1日号にて2ページの特集を掲載する等、本市のPRを行った。 平成29年度に制作した本市の文化芸術都市のイメージを生かしたシティプロモーション動画の15秒版をYouTube TrueViewで発信した。 宝塚大学の学生及び教員の協力のもと、インスタグラムに市のPRに資する写真を投稿いただいている「たからづかなフォトグラファー」との協働により、フォトブック「ときめく日々のたからばこvol.2 小さな発見」を制作、配布した。 【実績】 ○ライフスタイルブックvol.2:40,000部 ○YouTube TrueViewでの情報発信 ・15秒版を近畿、関東、東海地域で1箇月間 ・動画再生回数(平成30年度末時点):約100万回 ○フォトブック「ときめく日々のたからばこvol.2 小さな発見」:3,000部	ライフスタイルブックvol.2については、vol.1に引き続き、宝塚市らしい美しく洗練されたイメージで構成し、阪急沿線の主要駅や多くの観光客等が訪れる大規模施設のほか、ふるさと納税記念品にも同封し、市外に向けて広く配布した。また、冊子の中で読者アンケートを実施したところ、内容について高い評価をいただいた。 YouTube TrueViewについても、1箇月間で動画再生回数が約100万回に上り、広域において宝塚市の魅力を発信できたといえる。また、シティプロモーション動画については、兵庫県広報コンクール(映像部門)において最優秀である「特選」を受賞し、全国広報コンクールにおいて入選を果たした。 フォトブックvol.2についても、日々の生活の中で発見したときめきの一瞬が詰まったものとなっており、多くの方から好評を得たが、市外での配布が課題である。 ライフスタイルブック、シティプロモーション動画、フォトブック等によって宝塚市のイメージやブランド価値の向上を図ることができた。
宝塚市	【観光振興・宣伝事業(観光PR)】 紙媒体への特集等の掲載により、観光PRを行い、誘客を促進する。	313,500	313,500	ソフト事業 (1) 観光宣伝事業補助金 627,000 事業費計 627,000 交付金実績額(事業費計×1/2) 313,500	観光イベント情報を紙媒体や観光協会HPにて発信。誘客の促進を行った。 【実績】 ○「旅と鉄道」平成30年11月号 ・配布部数:10万部 ・販売エリア:全国 ○「遊・悠・West」平成31年5-6月号 ・配布部数:85万部 ・配布エリア:NEXCO西日本管内	企業と交渉を行い、通常の広告掲載コストを大きく削減した。 多様化する観光客に合わせ、様々なシーンにおいて本市が印象づくよう、効果的かつ広域的な情報発信を行う必要があることから、どの媒体がどれほど効果があるのか検討する必要がある。
宝塚市	【観光振興・宣伝事業(アニメ・ハロウィンによる文化芸術のまち発信)】 花のみちライトアップを中心とした「宝塚アニメフェスタ2018×ハロウィン」を開催する。コスプレパレードやアニメ関連のワークショップなど、アニメのまちならではの企画を実施し、同時に参加型イベントを地元の商工関連事業者と連携して開催することで誘客と経済効果を狙う。	3,750,000	3,750,000	ソフト事業 (1) 観光宣伝事業補助金 7,500,000 事業費計 7,500,000 交付金実績額(事業費計×1/2) 3,750,000	手塚治虫ゆかりの地である宝塚市で、アニメに関連したイベントを実施することにより、市内外からの来場者がアニメや漫画文化に親しむ機会を作るとともに、会場となる宝塚駅、花のみち周辺といった本市観光の中心的なゾーンの賑わいや活気を創出した。今年度は「食」のイベントである宝塚ファミリーバーガーランドを実施し、より集客を図った。 実施期間は平成30年10月25(木)～11月4日(日)。※メインイベントは10月27日(土)、28日(日) 【実績】 集客人数:42,300人(前年度16,898人)	イベントでもより多くの集客が見込める「食」の要素を盛り込むことで幅広い世代の集客を図った。また、コスプレパレードではファミリー層の参加者が著増し、過去最高の来場者数を記録した。近隣店舗にヒアリングを実施した結果、対前年度同日売上比で約150%を記録するなど、本事業が近隣に与えた経済効果も大きかった。 各イベントでは様々な団体と協力連携することにより、それぞれのイベントの質を落とさずコストの削減圧縮を可能とした。

文化芸術を核とした戦略的なプロモーションによる移住・定住・交流促進～ときめく日々がたからもの。宝塚～
 地方創生推進交付金 評価シート(個別事業)

交付対象事業の名称	文化芸術を核とした戦略的なプロモーションによる移住・定住・交流促進～ときめく日々がたからもの。宝塚～						
総事業費 ※交付金以外含	18,040,000	交付決定額 (A)	9,020,000	実績額 (B)	8,865,370	過不足額 (A-B)	154,630

(単位:円)

事業主体名称	事業名及び内容	交付決定額	実績額	事業経費内訳	実施内容	評価
宝塚市	【海外魅力発信事業】 大学と連携し、外国人留学生に宝塚歌劇を観劇してもらい、日本が誇る舞台芸術の魅力を伝えるとともに、留学生自身によるSNSや口コミなどで広い情報発信を図る。	203,000	203,060	(ソフト事業) (1) 海外誘客事業補助金 406,121 事業費計 406,121 交付金実績額(事業費計×1/2) 203,060	京阪神間の大学に在籍している外国人留学生を対象に、本市が誇る日本文化「宝塚歌劇」の観劇料の一部(1人あたり1,000円)を補助し、観劇した留学生にその素晴らしさを体感してもらった。また、参加留学生からの口コミやSNSにより、母国の友人や家族への情報発信を図った。実施日は平成30年11月17日(土)、18日(日)、25日(日)、12月2日(日)の4日程。 【実績】 参加校数:11大学(前年度:11大学) 参加者数:296名(前年度:307名) インスタグラムによる拡散数:フォロワー3,282人、いいね!629人(前年度:フォロワー2,413人、いいね!288人)	過去に参加している大学からは喜ばれており、前年同様11大学からの参加申し出があった。参加留学生からアンケートをとった結果は、概ね高い満足度を得ている。 SNSにおける情報発信については、各国において主流となっている媒体は異なっているため、全ての参加者にSNSでの発信を促すのは難しく、参加者を巻き込んだ効果的な拡散手段の検討が必要である。
宝塚市	【新名神高速道路建設促進事業(新名神高速道路活用魅力発信)】 平成30年3月に供用を開始した新名神高速道路のスマートインターチェンジ、サービスエリアにおいて、道路会社と連携し、特産品販売などのイベントを開催し、同施設の認知度増を図るとともに、本市の魅力をPRする。	0	0	事業費計 0 交付金実績額(事業費計×1/2) 0	本事業については、「事業No.1地域資源を活かした活力あるまち」の「新名神高速道路利活用等地域活性化推進事業」に統合して執行した。	
宝塚市	【学力向上推進事業(自己表現力向上)】 小学校の授業で、劇作家による演劇手法を活用したワークショップを実施する。コミュニケーション能力や自己表現力の向上を図るとともに、文化芸術に触れる機会を創出する。	600,000	600,000	(ソフト事業) (1) 演劇のワークショップに係る講師(劇作家)派遣手数料 1,200,000 事業費計 1,200,000 交付金実績額(事業費計×1/2) 600,000	市内小学校において、5年、6年生児童を対象に専門家による自己表現力向上のためのワークショップを開催した。 6人から7人のグループに分かれ、決められたテーマに即した対話劇の台本を創作する。その後、役割分担を行い発表し合う。発表後、対話劇を通してお互いに面白かったことや難しかったこと、不自然に見えたところ、気づいた点などの意見交換を行い、交流を図った。 1,2校時:対話劇について 3校時:台本作成及び対話劇練習 4校時:発表及び評価・振り返り 【実績】 小学校6校、延べ13クラスで演劇ワークショップを実施	普段の生活の中では、人間関係が固定化してしまい、それが原因で自己を表現することに抵抗を持つ子どもも少なくない。このような状況の中、専門家による演劇的手法を活用したワークショップを実施し、自己の内面を表現することを通して、これからの時代を生きる子どもにとって必要な基礎能力であるコミュニケーション能力を培うとともに、自己表現力の向上を図れ、文化芸術に触れるよい機会となった。自己表現力ワークショップ実施校において、児童の生き活きた活動の様子が見られた。今後、引き続き、市内小学校全校でワークショップを実施できるよう事業を進める。
宝塚市	【商工振興事業(文化芸術産業等活性化事業)】 商店街の空き店舗へギャラリーなどを設置する事業者へ家賃の補助を行い、文化芸術産業や関連産業の振興を図る。	50,000	0	事業費計 0 交付金実績額(事業費計×1/2) 0	商店街の空き店舗への出店する事業者に対する家賃補助制度を実施したが、ギャラリーを設置する事業者からの申請はなかった。	窓口やホームページで制度についての情報発信を行うとともに、関係機関と連携し出店希望者への制度の周知を図っていく。
		9,020,000	8,865,370			

地方創生推進交付金 評価シート(個別事業)

交付対象事業の名称	エイジフレンドリーシティの創造～市民の参画・交流・活躍による豊かな地域づくり～						
総事業費 ※交付金以外含	30,138,000	交付決定額 (A)	15,069,000	実績額 (B)	14,346,976	過不足額 (A-B)	722,024

(単位:円)

事業主体名称	事業名及び内容	交付決定額	実績額	事業経費内訳	実施内容	評価
宝塚市	<p>【住民自治組織支援事業】</p> <p>まちづくり協議会の取組を支援し、地域自治の確立を図り、官民一体となった総合的なまちづくりを推進する。</p> <p>まちづくり協議会の周知、組織体制の強化、自己評価を行うとともに、まちづくり計画見直しにかかる地域課題の洗い出しやまちづくり計画にかかるワークショップの開催、まちづくり計画の策定にかかるまちの将来像のとりまとめに取り組む。</p>	4,995,000	4,995,000	<p>(ソフト事業)</p> <p>(1) 住民自治組織支援業務委託費 9,990,000</p> <hr/> <p>事業費計 9,990,000</p> <p>交付金実績額(事業費計×1/2) 4,995,000</p>	<p>地域ごとのまちづくり計画見直しのため、平成30年度は、まちづくり計画見直しガイドラインの作成・印刷、現行の地域ごとのまちづくり計画の検証、各まちづくり協議会でのまちづくり計画見直し組織(部会等)の運営の支援、地域ごとのまちづくり計画に盛り込む具体的内容の整理、基礎的な資料「地域カルテ」の充実を行った。</p> <p>【実績】</p> <p>地域ごとのまちづくり計画見直しを支援した協議会数：20協議会</p> <p>まちづくり計画見直しガイドライン：3,000冊</p>	<p>地域ごとのまちづくり計画見直しは、平成29年度から令和元年度にかけて行うこととしており、平成30年度中に実施を予定していた支援事業については全て実施達成した。協働のまちづくり促進委員会とともに作成した「まちづくり計画見直しガイドライン」を基に、地域自治推進担当次長が地域に出向き支援する体制を構築し、地域と行政が協働で見直しに取り組むことができた。来年度も引き続き、見直し完了に向けて取り組むとともに、冊子等を活用しながらのまちづくり協議会の周知等、さまざまな方法で住民自治組織を支援していく。</p>
宝塚市	<p>【市民協働推進事業】</p> <p>協働のまちづくりを推進するため、官民の取組内容の充実を図るとともに、普及啓発を行う。</p> <p>協働を進めるための仕組みづくりの検討を行うとともに、協働のまちづくりに向けた市民・職員研修会、説明会の開催、協働に関する冊子等の発行に取り組む。</p>	1,649,500	1,073,049	<p>(ソフト事業)</p> <p>1 協働のまちづくり促進委員会の開催</p> <p>(1) 委員報酬 1,550,000</p> <p>(2) 会議録作成手数料 32,700</p> <p>2 協働の指針市民説明会・職員研修会の開催</p> <p>(1) 謝礼 158,000</p> <p>(2) 手話・要約筆記料 32,960</p> <p>(3) 啓発物(ポスター、チラシ等)印刷製本費 124,092</p> <p>(4) 一時保育手数料 6,000</p> <p>3 協働に関する冊子等の発行</p> <p>(1) 宝塚市きずなの家PRパンフレット 58,320</p> <p>4 その他</p> <p>(1) 消耗品費 131,786</p> <p>(2) 写真焼き付け費 410</p> <p>(3) 会議等における食糧費 51,830</p> <hr/> <p>事業費計 2,146,098</p> <p>交付金実績額(事業費計×1/2) 1,073,049</p>	<p>協働のまちづくりを推進するため、協働のまちづくり促進委員会を開催した。平成30年7月30日および平成31年2月2日には、協働の指針について市民に対する説明会を開催した。また、若手職員がまちづくり協議会に出向く実地研修「地域活動きずな研修」をはじめとする職員研修会を開催した。</p> <p>また、地域ごとのまちづくり計画見直しに関する共通の指針として「まちづくり計画見直しガイドライン」の作成や、まちづくり協議会を条例で位置付けることについて、さまざまな議論を行った。</p> <p>さらに、協働に関する冊子として、宝塚市きずなの家PRパンフレットを作成し、市内に7つあるきずなの家PRパンフレットを作成し、市内に7つあるきずなの家PRパンフレット等に向けて取組を行った。</p> <p>【実績】</p> <p>協働のまちづくり促進委員会開催回数：13回</p> <p>協働の指針市民説明会開催回数：2回</p> <p>協働の指針市民説明会出席者数：40人</p> <p>協働の指針職員研修会開催回数：28回</p> <p>宝塚市きずなの家PRパンフレット：4,500冊</p>	<p>協働のまちづくり促進委員会との協働により、「まちづくり計画見直しガイドライン」を作成した。市民説明会では、「協働の指針」に基づく取り組みの進め方について普及啓発を行うことが出来た。職員研修会では、若手職員が地域に出向くことにより、地域活動の内容を知り、協働の取組の進め方を学ぶことが出来た。令和元年度も同委員会と協働し、市民や職員に対して、協働による取組の進め方について、引き続き周知を図り、協働のまちづくりを継続して推進する。</p>
宝塚市	<p>【市民活動促進支援事業】</p> <p>まちづくり協議会の活動の活性化を図るため、広報活動に関する支援を行う。</p> <p>まちづくり協議会に関するホームページの運営を行うとともに、まちづくり協議会へのブログ等の運営に関する支援を行う。</p>	1,255,000	1,254,960	<p>(ソフト事業)</p> <p>(1) 市民活動促進支援業務委託費(情報発信等支援業務) 2,509,920</p> <hr/> <p>事業費計 2,509,920</p> <p>交付金実績額(事業費計×1/2) 1,254,960</p>	<p>まちづくり協議会ホームページのポータルサイトを運営し、まちづくり協議会のブログによる情報発信について、面談や電話による支援を行った。また、まちづくり協議会の活動の活性化を図ることを目的とした広報等の企画として、ポータルサイト内で訪問記『お出かけまちキョン』を掲載し、地域と活動の魅力を伝えた。さらに、まちづくり協議会の広報力を向上させるための講座(情報発信及びスマホ写真講座)などを実施した。</p> <p>【実績】</p> <p>面談・電話による支援件数：39件</p> <p>ホームページアクセス件数：167,944件</p> <p>訪問記『お出かけまちキョン』記事回数：17回</p> <p>情報発信及びスマホ写真講座参加者数：18人</p>	<p>まちづくり協議会ホームページのポータルサイトにおいては、情報発信支援によって、16万強のアクセス件数となり、まちづくり協議会広報活動の活性化につながった。ブログに掲載するスマホ写真の撮影方法講座を実施するなどし、広報力向上につながるよう支援を図った。令和元年度も様々な施策による支援を継続していく。</p>

地方創生推進交付金 評価シート(個別事業)

交付対象事業の名称	エイジフレンドリーシティの創造～市民の参画・交流・活躍による豊かな地域づくり～						
総事業費 ※交付金以外含	30,138,000	交付決定額 (A)	15,069,000	実績額 (B)	14,346,976	過不足額 (A-B)	722,024

(単位:円)

事業主体名称	事業名及び内容	交付決定額	実績額	事業経費内訳	実施内容	評価
宝塚市	【エイジフレンドリーシティ推進事業】 高齢になってもいきいきと暮らせるまちづくりを実現するため、エイジフレンドリーシティの取組を推進する。	3,438,000	3,442,768	(ソフト事業) 1 講演会・職員研修 (1) 謝礼 120,000 (2) 手話・要約筆記料 73,950 (3) 消耗品 1,782 (4) 食糧費 2,250 (5) 会場使用料 58,887 2 エイジフレンドリーシティ推進事業 (1) 委託料 6,366,600 (2) 消耗品 3,460 (3) 印刷製本費 248,400 (4) 郵便料 4,343 (5) 食糧費 5,865 事業費計 6,885,537 交付金実績額(事業費計×1/2) 3,442,768	エイジフレンドリーシティの推進に関する市内向けの研修会を実施し、職員52名が参加した。また、社会参加が健康に良い影響を与えるという統計的根拠を示しながら、市民に地域での活動を促す市民向け講演会などを2回開催し、延べ222名の参加があった。 市民から公募したメンバーでエイジフレンドリーシティを推進する取組を検討、実践する「宝塚市お互いさまのまちづくり縁卓会議」を設置し、延べ20回開催した。「居場所づくり」「健康・生きがい就労」「広報・情報」に分かれてモデル事業に取り組んだ。 「健康・生きがい就労」では、元気な高齢者と人員不足の介護業務をマッチングさせ、本市の経済活動の循環の一助にもなる「健康・生きがい就労トライアル」に取り組み、1法人3施設で17名の就労者がトライアルに参加した。 また、「居場所づくり」では、子育て世代を中心とした居場所を立ち上げ、毎月開催するとともに、県営住宅の空き部屋等を活用し、高齢者や子育て世代を支える環境づくりとしての活用を検討し、現地視察を実施した。 「広報・情報」では、地域活動の取材やFacebookページの立ち上げ、運営、WEBサイト構築の検討に取り組んだ。	縁卓会議では、地縁団体で活動されている方、子育てなどテーマを持って活動されている方、元企業勤めの方などが混じり、話し合いながらモデル事業を実施されている。「健康・生きがい就労」は、予想を上回る反響があり、今後も、就労受入れ事業所の拡大と、介護業界以外への展開を図っていく。「居場所づくり」では、月1回の開催を継続し、市内で誰もが居場所づくりに取り組めるように、ノウハウ等を継承できる仕組みづくりに取り組む。「広報・情報」では、市民や企業、事業所などの活動を対象とした取材研修などを検討し、WEBサイトを中心に、効果的な情報発信の工夫を行っている。 次年度は交付金の最終年度となるため、交付金終了後を見据えた、自走可能な仕組みを検討していく。併せて、市民、企業や事業者がこれまでから取り組み、活動されている実践例を表彰、認定するイベントを実施することにより、互いの活動を認め合い、協力し合うお互いさまのまちづくりの考え方を広く市民に周知する。
宝塚市	【新事業創出総合支援事業】 地域や社会課題をビジネスの手法を用いて解決に取り組む「ソーシャルビジネススタートアップ講座」を開催し、ソーシャルビジネスの起業、成長を促進する。	1,231,500	1,231,200	(ソフト事業) (1) ソーシャルビジネス創業支援事業業務委託料 2,462,400 事業費計 2,462,400 交付金実績額(事業費計×1/2) 1,231,200	宝塚NPOセンターに業務委託を行い、ソーシャルビジネスの起業と成長を応援するため、ソーシャルビジネスに取り組む対象者のコミュニティ形成、スタートアップスクールの開講、ソーシャルビジネス成功事例視察等を実施し、事業化の応援や仕組みづくりを行った。 【実績】 ・ソーシャルビジネスに取り組む対象者のコミュニティ形成交流会の開催(1回) 参加者数:51名 ・ソーシャルビジネス起業講座 ソーシャルビジネススタートアップスクール(計4回) 受講者数:18名 ・ソーシャルビジネス成功事例見学会 平成31年3月7日(宍粟町)	ソーシャルビジネス起業講座を受講した1名の方が既に新たな起業に繋がっており、また3名の方が具体的に起業準備中であり、起業支援として一定の効果があつたと評価している。また、受講者からの講座に対する満足度も高かった。 今年度は、新たにソーシャルビジネスに取り組む対象者のコミュニティを形成するため、交流会を開催した。この交流会では、ソーシャルビジネスで重要となる参加者同士のつながりを生むことに成功し、今後の起業に向けての仕組みづくりや土壌づくりを行うことができた。
宝塚市	【公園リノベーション事業】 公園を新たな市民活動の場として活用できるようリノベーションを施す。市民が自ら計画し、実施する活動内容を公募により募集し、市民活動の活性化やエイジフレンドリー社会に寄与するかを審査し選定する。市は選定された団体の希望に応じて公園をリノベーションするほか、活動開始にあたる支援を行う。	2,500,000	2,349,999	(ソフト事業) (1) 公園リノベーション事業補助金 984,798 (ハード事業) (1) 花のみち・さくら橋公園施設整備工事 2,059,560 (2) 北中山公園施設整備工事 1,655,640 事業費計 4,699,998 交付金実績額(事業費計×1/2) 2,349,999	平成30年12月から平成31年3月の期間で、花のみち・さくら橋公園において児童向け遊具・健康遊具・ベンチの設置工事を行ったほか、秋祭りやミニ運動会等の用具を購入した。同期間、北中山公園では、健康遊具の設置工事を行い、雑木林の整備に必要な機材や会合に使用するテーブル・ベンチの購入、それらを保管するための倉庫の購入設置を行った。また健康体操教室を開催し、3月末時点で計2回の開催があり、1回につき平均10名の地域住民が参加した。	花のみち・さくら橋公園については、児童向け遊具が充実し、遊具付近にベンチを設置したこと、また、高齢者向けの健康遊具が新しく設置されたことにより、幅広い年代が集える公園になった。今後申請団体より、ミニ運動会やベタノク競技など児童から高齢者まで参加できるイベントが開催される計画であり、より多くの地域住民に親しまれる公園になることが期待できる。 北中山公園については、健康遊具の設置や、講師を招いて定期的に開催される健康体操教室によって、地域住民やハイキングを訪れる人の健康推進を図れる公園となった。
		15,069,000	14,346,976			